

PRESTO® A30

6 Lのガラス反応容器を +20℃から-10℃まで冷却運転

目的

このケーススタディのテストでは、PRESTO® A30 と 6Lのガラス反応容器を接続して、冷却試験を行っています。PRESTO® A30は2mのメタルチューブで接続されています。PRESTO® A30 は、+20℃から-10℃への冷却運転を行っています。



環境

室温	+20 °C
湿度	45 %
電源	230 V / 50 Hz

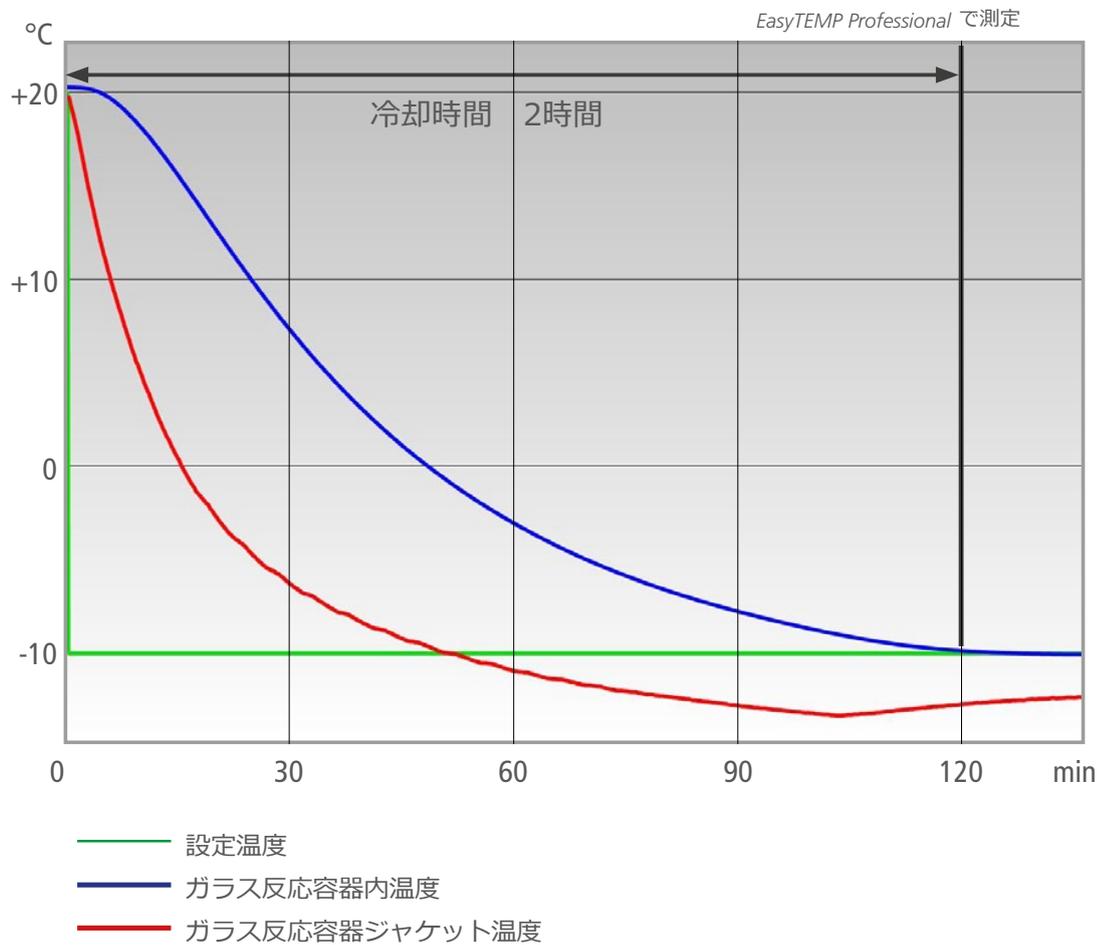
試験条件

使用機種	PRESTO® A30
冷却能力	+20 °C 0.5 kW 0 °C 0.4 kW -20 °C 0.2 kW
加熱能力	2.7 kW
バンドリミット	設定していません
ポンプ圧	0.5 bar
循環液	ユラボ社製 サーマルHL60
反応容器	6Lガラス製反応容器 (QVF) (容器内にはユラボ社製 サーマルHL60を 5L充填しています)
ジャケット容量	4.5L
温度制御	外部制御(ICC)



試験結果

PRESTO® A30の冷却運転では、+20℃から-10℃へ2時間でオーバーシュートなしで到達しました。



その他機能
容器の保護：
“バンドリミット”機能
(上記参照)で、
容器内部温度と
ジャケットの温度差を
制限して設定する事が
できます。

Profile of reactor

その他機能
M+Rインライン
センサーを組み込む
事で、追加して
温度を表示し記録する
ことが可能です。